

緑の青年就業準備給付金事業

事業評価個票（事業実施：平成30年度）				部局名	農林水産部			
短期アクションプラン	テーマ	テーマ4 地域の豊かさを支え、高いブランド力で国内外に展開する農林水産業						
	施策	施策6 「やまがた森林ノミクス」の推進						
	目的	本県の豊かな森林資源の県民総参加での利活用と再生を進めるとともに、林業及び木材関連産業の振興を図り、地域の活性化へ結びつける。						
	目標指標(R2)	木材(素材)生産量	60万m ³					
	策定時の実績	36万m ³ (H27)	現状	48.9万m ³ (H29速報値)	主要事業	「やまがた森林ノミクス」を支える人材の育成・確保		
事業名	緑の青年就業準備給付金事業		担当課・担当	森林ノミクス推進課 林政企画担当				
事業開始年度	平成28年度		事業終了(予定)年度	未設定				
事業の目的 (目指す姿を3行程度で簡潔に)	戦後に植林した森林が本格的な利用期を迎え、伐採等の作業量の増加が見込まれる一方で、今後、高齢化している林業従事者の退職が本格化することから、新規就業者を継続的に確保していく必要がある。給付金事業の実施により、農林大学校の生徒が研修に専念できる環境の整備を図ることで、林業従事者の確保を推進する。							
事業概要 (5行程度で簡潔に)	<p>○林業への就業に向け、農林大学校において必要な知識の習得等を行い、将来的に林業経営をも担い得る有望な人材として期待される青年に対して、安心して研修に専念できるよう給付金を給付する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・給付金額：最大1,375千円/年 ・給付期間：最大2年間 							
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託・請負 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> 交付 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> その他 上記実施方法とする理由：県立農林大学校林業経営学科の生徒に対する給付であるため、県が直接実施する。							
予算額・決算額 (単位：千円)	費目(予算見積書のグループ名)	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度		
	緑の青年就業準備給付金	31,250	24,750	-	-	-		
	緑の青年就業準備給付金事業の推進(事業実施に係る事務費)	333	313	-	-	-		
	計	31,583	25,063	0	0	0		
財源内訳 (単位：千円)	国庫支出金	31,583	25,063					
	繰入金							
	その他特定財源							
	一般財源							
	計	31,583	25,063	0	0	0		
活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標		単位	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	給付金受給者数	活動実績	人	19	14	-	-	-
		当初見込み	人	20	18	-	-	-
成果指標及び成果実績 (アウトカム)	成果指標 (所管部局の分析)		単位	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	新規就業者数 (事業実施により、研修環境の整備を行うことで、新規就業者の確保に資することができる)	成果実績	人	48	63	-	-	-
		目標値	人	60	70	70	70	-
		達成度	%	80	90			
関連事業	山形県青年林業士活動推進事業							

事業目標の考え方(事業目標設定時)

給付金事業の実施により研修環境の整備を図ることで、農林大学校への入校者の安定的な確保が期待される。
また、給付金の受給には将来的な林業分野への就業が要件となるため、当該事業の実施は林業従事者の確保に大きく寄与するものである。
事業目標は、新規就業者数とし、近年の就業者数や他の関連事業を含めた取り組みによる効果を勘案し設定した。

事業所管部局による評価・検証

	項目	評価	評価に関する説明
事業目標の妥当性・達成度	事業の目的は県民や社会のニーズを的確に反映しているか。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・本県の林業への新規就業者数は近年50名程度で推移しているが、県立農林大学校に平成28年度に新設された森林経営学科の卒業生の就業が大きく寄与している。 ・当事業は、林業への就業に向けて農林大学校において研修を受ける者に対して給付金を給付するもの(国庫補助事業)。 ・平成30年度の卒業生で当給付金を受給した8名全員が林業に就業しているほか、直近の新規就業者は63名(平成29年度)となっており、概ね期待通りの成果となっている。
	明確な政策目的(成果目標)の達成手段として位置付けられ、優先度の高い事業となっているか。	A	
	目標水準は妥当か。	A	
	期待する成果が得られたか。	B	
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	A	
事業内容の妥当性	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	C	<ul style="list-style-type: none"> ・給付者は18名(うち新入生10名)を見込んでいたが、実際の申請者は14名(うち新入生6名)に留まった。 ・当事業は、学生(給付対象者)に県が直接給付するものであるが、卒業後の林業分野への就業が給付条件となっていることから、給付申請はあくまでも本人の意向による。 ・学生は授業料や寮使用料のほか、生活費や教科書代、実習費等で相当額の負担があり、当給付金による負担軽減は大きい。 ・当事業は国の実施要領に準拠しており、妥当と考えられる。 ・農林大学校では農業分野の学生に対しても同様な交付事業があり(農業次世代人材投資資金)、2つの事業で農業、林業への就業支援を行っている。
	支出先の選定は妥当か。	A	
	受益者との負担関係は妥当であるか。	A	
	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	A	
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。	A	
類似の事業がある場合、他部局等と適切な役割分担を行っているか。	A		
の役割 妥当 分性担	市町村、民間等に委ねることができない事業なのか。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・当事業は、学生(給付対象者)に県が直接給付する国庫補助事業である。
今 改後 善の 点課 等題 ・	<ul style="list-style-type: none"> ・農林大学校森林経営学科の学生に当事業のメリット等について説明を行い、一人でも多くの林業分野への就業と当事業の活用について働きかけていく。 		

・事業所管部局による評価にあたっては、以下の4つの選択肢から、1つを選ぶこと。

A: 目標を上回って達成する見込み。期待通りの成果(100%以上)。妥当。

B: 目標を概ね達成する見込み。概ね期待通りの成果(80~99%)。概ね妥当。

C: 改善の余地あり。期待した成果を下回っている(79%以下)。

ー: 該当しない